

©創通エージェンシー・サンライズ



Ver. 1.5

EFSF
EF SPACE FORCE
RX-78-2
GUNDAM.

GUNDAM
MOBILE SUIT
E.F.S.F. PROTOTYPE
E.F.S.F.

2000

BANDAI 2000 MADE IN JAPAN

パッケージの写真・イラストと商品とは、多少異なりますのでご了承ください。

BANDAI

Ver. 1.5



MOBILE SUIT
RX-78-2

GUNDAM

E.F.S.F. PROTOTYPE
CLOSE-COMBAT MOBILE SUIT



地球連邦軍白兵戦用モビルスーツ
RX-78-2「ガンダム2号機」
リニューアル+フルウェポン
1/100 スケール
マスターグレードモデル Ver. 1.5

BANDAI 2000 MADE IN JAPAN

Scanned by DeJong.net



開発が進められていたもので、その時点での最高性能と連邦軍が保有する技術力の斜を凝らして設計されている。

ルナ・チタニウムと呼ばれる連邦独自の新合金を採用することによって、ザクと比較して大幅な軽量化に成功したガンダムは、高い機動性と運動性を手に入れた。さらにこの素材は装甲材としても優秀であり、破壊の耐久性をガンダムにもたらした。また、画期的な技術革新によって可能となつたビーム兵器の搭載は、M 1 の高機動性と、驚異的な攻撃能力を M 1 に付帯することに成功したのである。ガンダムはこれらの技術によって、当時最強の装甲と駆動部の破壊力をもつ最新の MS として誕生したのである。

ただし、連邦軍は M 1 という兵器を採用する事からはじめなければならないかった。ガンダムを始めとする連邦製の各 MS は、まさしくその確認のために作られたのだといつても過言ではない。ホワイトベースを母艦とし、各種戦術および戦闘のシミュレートを行い、並行してデータ収集を確実なものとする。MS そのもののデータ収集は、V 作戦における最優先事項でもあったのである。そのため、コア・ブロック・システムが採用されており、パイロットの脱出装置およびデータの回収ユニットとして機能する。史上初の刈 M 1 兵団として建造されたガンダムは、プロトタイプであるがゆえに、最先端の技術が投入され、時期によって、その武装やスタイルも著しく異なることがあったと言われている。それらの試行錯誤が、ガンダムをして当時最強の機体といわしめ、また、後の時代の M 1 に決定的な影響を与えるほどの戦果を残す要因ともなっているのである。



RX-78-2 GUNDAM

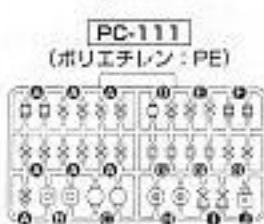
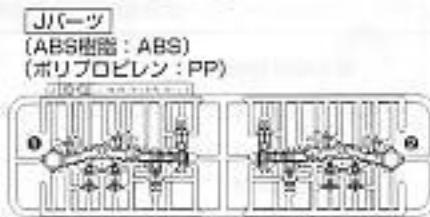
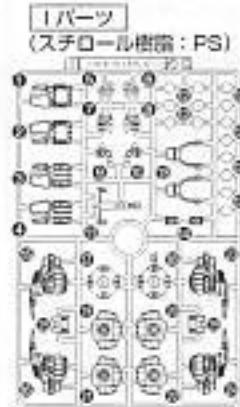
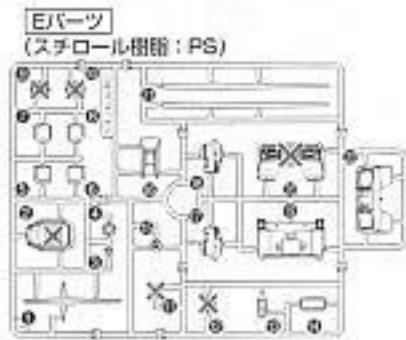
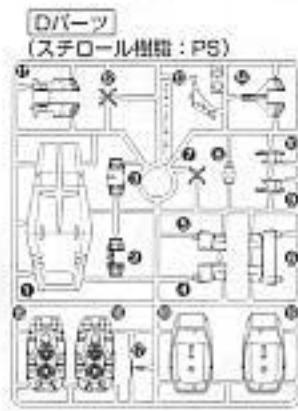
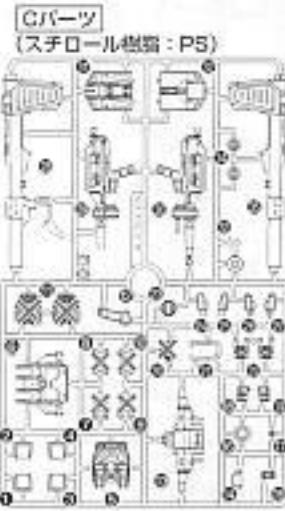
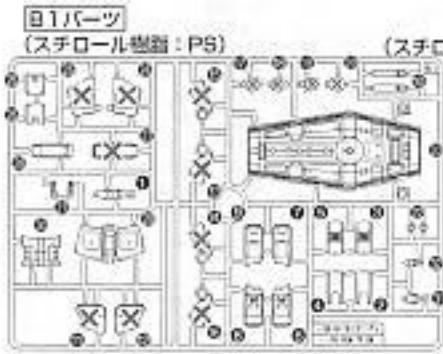
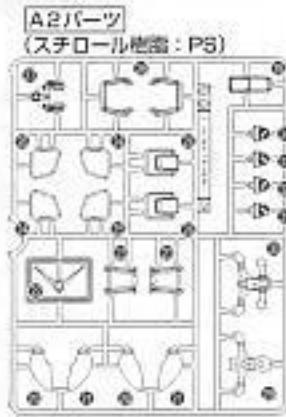
U.C.0079年初頭。宇宙植民都市サイド3はジオン公国を名乗り、地球連邦政府に独立戦争を挑んだ。公国軍は巨大な人型機動兵器モビルスーツ(以下、MS)と NBC 兵器を投入し、他の宇宙植民都市に奇襲を敢行。加えて全長30kmに及ぶコロニーシーリンダーを地球に落下させた。数で勝り、圧倒的に優位であったはずの連邦軍宇宙艦隊は、旧来の艦術を復す M 1 に翻弄され、一ヶ月あまりの戦いで壊滅に等しい損害を被り、総人口の約半数が死に至った。その後、公国軍は地球降下作戦を展開。地球本土のおよそ2/3を制圧。戦闘は膠着状態に陥った。

連邦軍は、かねてより進行していた RX 計画に連なるプロジェクトを統合する形で、拘束した MS ザクを解説し、本格的な高性能 MS と、その母艦との開発を並行して行う V 作戦を立案、実行した。ただし、この時点で連邦軍が公国軍に勝っていたのは、新素材の開発能力と、ビーム兵器の小型化技術だけであったと言われている。しかし、この点こそが、計り知れないアドバンテージであったことも確かである。

RX-78 ガンダムは、連邦軍が指揮とすべき MS のリファレンスとして開発された。この機体は、実質的には前年度から最強の MS を目指して



パーツリスト



カラーシール.....1枚
マーキングシール.....1枚
ガンダムテカール.....1枚
ビス.....2個
ナット.....2個
プラチーン.....1本
チェーンつなぎ.....2個

(お買い上げのお客様へ)

部品をこわしたり、なくした人には実費にてお分けします。「部品注文カード」に必要な部品の記号・番号・数量をはっきり書いて切り取り、郵便局で定額小為替をお買い求めいただき下記までお申し込みください。代金は、部品代(1個40円×個数)+郵送料(120円)です。為替証書は無記入(白紙)で同封してください。なお、部品の形状・重量で郵送料に過不足が生じるときはあります。部品発送の際に120円を超える時は不足分を請求、120円以下の時には残額をお返しいたします。もし部品に不良品がございましたら、その部品を切り取り、商品名を書いて、下記まで封書にてお送りください。良品と交換させていただきます。

■申し込み先 (株)バンダイ静岡相談センター
〒424-8735 静岡県清水市西久保305 TEL0543-65-5315

For Japanese use only.

部品注文カード 76372-3000
1/100SCALE MGシリーズ
RX-78-2 ガンダム Ver.1.5

必要な部品の記号・番号・数量をかく

●注文された理由(○で囲む)(こわしたなくした)

部品の注文は「定額小為替」でお願いいたします。

'00.06

2000.06/T・CN

RX-78-2 GUNDAM

Parts name of
RX-78-2 (ver.1.5)

Parts List

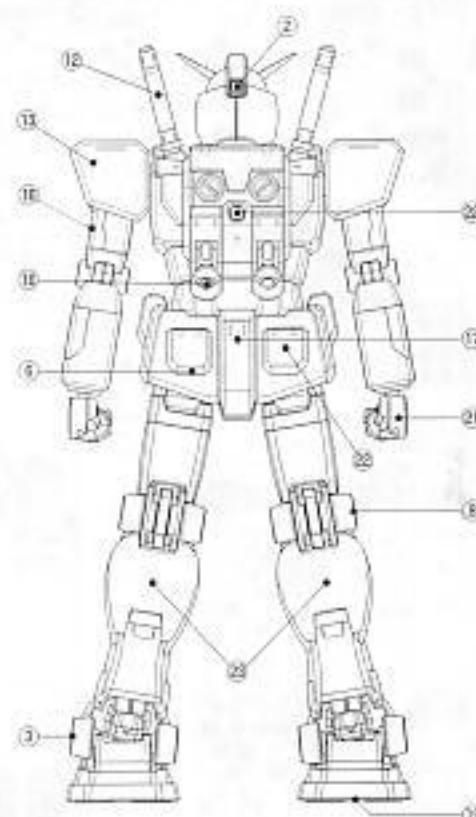
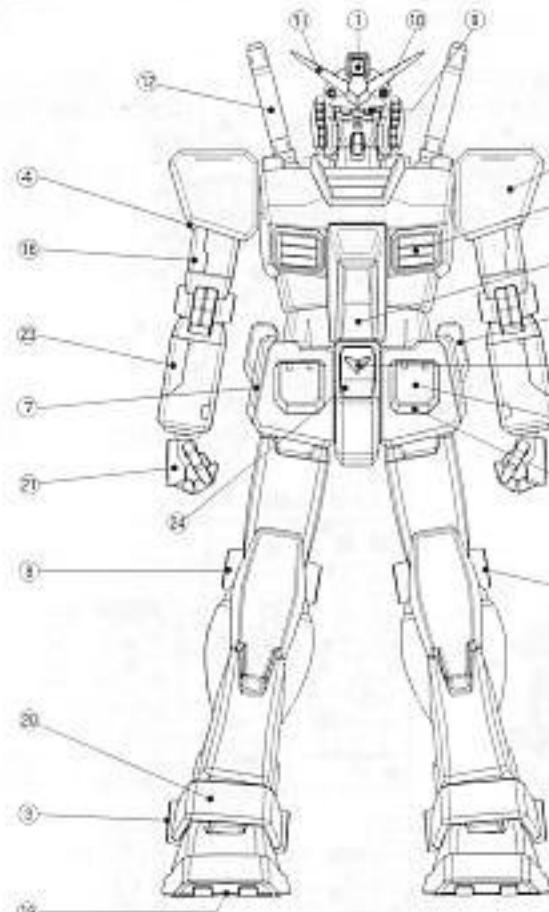
COCKPIT

Head

Arm Unit

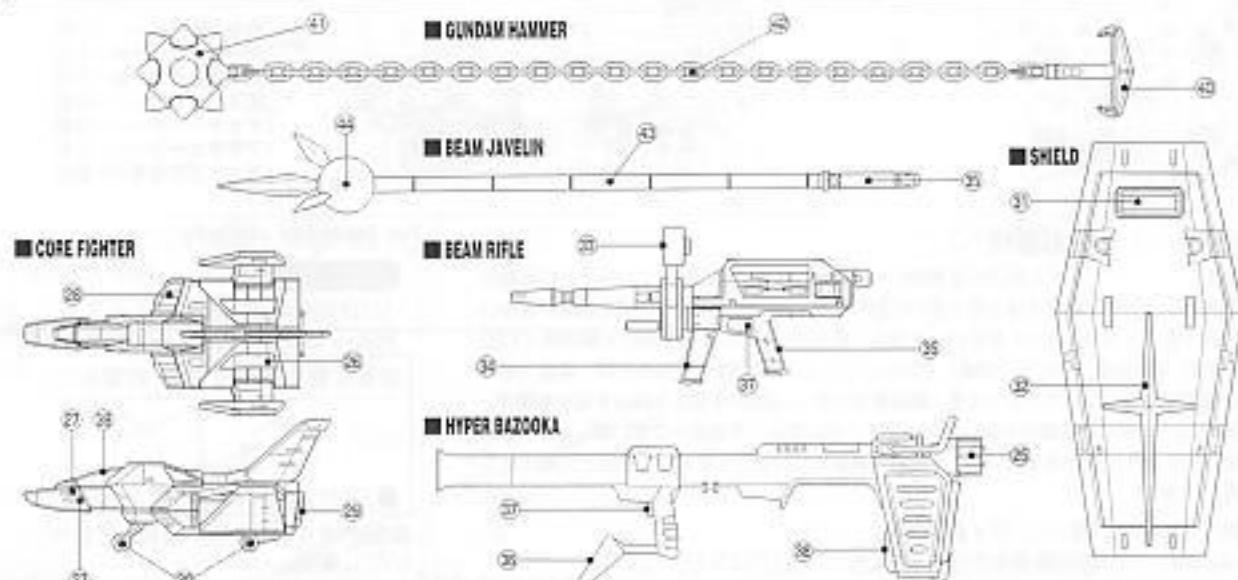
Leg &
Weapons

Final Assemble



- | | | | | |
|--------------------|---------------|-----------------|----------------|------------|
| ① メインカメラ | ⑪ 60mmバルカン | ⑯ サブスラスター | ㉑ エアインテーク | ㉔ トリガー |
| ② リアカメラ／センサー | ⑫ マルチブレードアンテナ | ㉒ アンクルサポートユニット | ㉕ ロケット／ジェットノズル | ㉖ マガジン |
| ③ アンクルジョイントアーマー | ⑬ ビーム・サーベル | ㉗ マニピュレーター | ㉘ ランディングギア | ㉙ コクピット |
| ④ スラスター | ㉑ ショルダーアーマー | ㉚ ハードポイント | ㉛ 直視型ウインドー | ㉜ ハンドル |
| ⑤ サブスタンスコントロールシステム | ㉒ ダクト／スラスター | ㉝ クローキングサブスラスター | ㉟ エンブレム | ㉞ ハンマー・ヘッド |
| ⑥ コンバーターシステム | ㉓ コクピットハッチ | ㉞ フィールドデフレクター | ㉛ サイトスコープ | ㉞ チェーンワイヤー |
| ⑦ サイドアーマー | ㉔ メンテナンスハッチ | ㉟ ダクト | ㉜ フォアグリップ | ㉞ シャフト |
| ⑧ ニージョイントアーマー | ㉕ マウントラッチ | ㉟ ミサイルハッチ | ㉟ グリップ | ㉞ ビームヘッド |
| ⑨ デュアルセンサー | ㉖ メインスラスター | ㉟ 30mmバルカン | ㉟ マスバランサー | |

注) この機体は、ロールアウト直後から何度もオーバーホールや改修を受けている。中でも大規模なものは、U.C.0079年11月のオデッサ作戦終了後と同年12月のジャブロー防衛戦終了後の改修である。



△ 注意

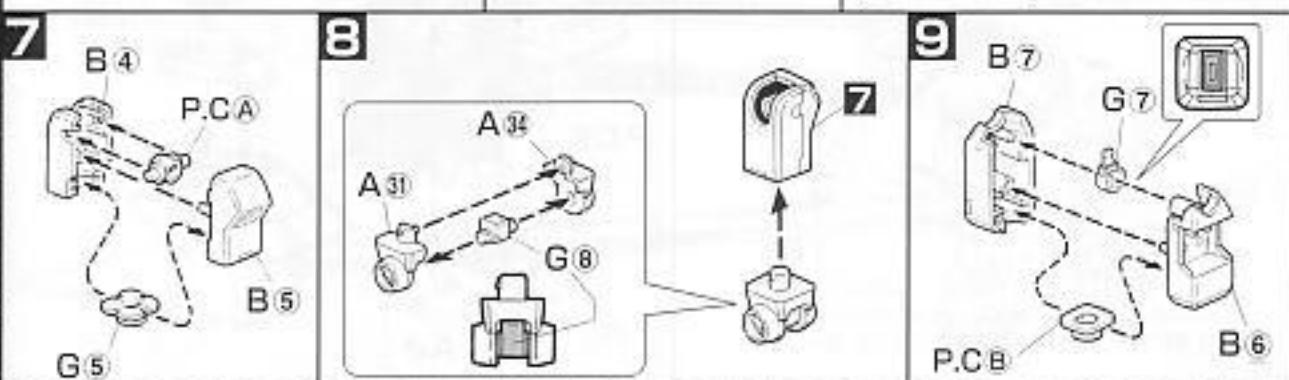
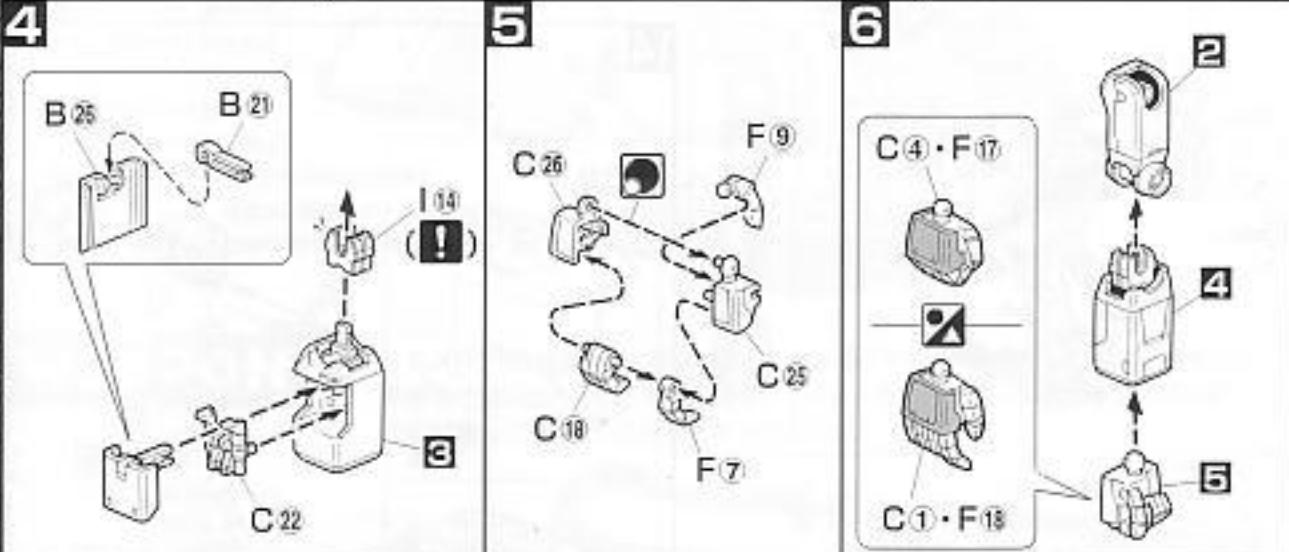
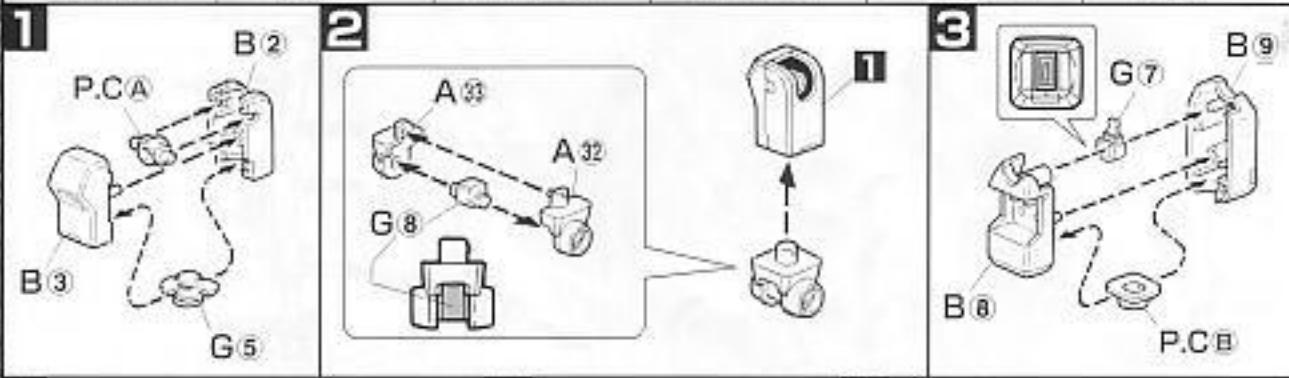
必ずお読みください

- この商品の対象年齢は15才以上です。(锐い部品がありますので、安全上15才未満には販しません。)
- 小さな部品があります。口の中には絶対に入れないとください。窒息などの危険があります。
- ビニール袋を頭から被ったり、頭を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。
- 小さなお子様のいるご家庭では、お子様の手の届かないところへ保管し、お子様には絶対に与えないでください。

※このキットの組み立てには+（プラス）ドライバーを使いますので別にご用意ください。

（組み立てる時の注意）

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。切り取った後のクスは捨ててください。
- 部品の加工の際の刃物、工具、墨汁、接着剤などのご使用にあたっては、それぞれの取扱説明書をよく読んで正しく使用してください。
- 部品の中には、やむをえず、とがったところがあるものもありますが、気をつけて組み立ててください。
- 接続にはより安全な「水性溶剤」のご使用をおすすめします。



Parts name of
RX-78-2(ver.1.5)

Parts List

COCKPIT

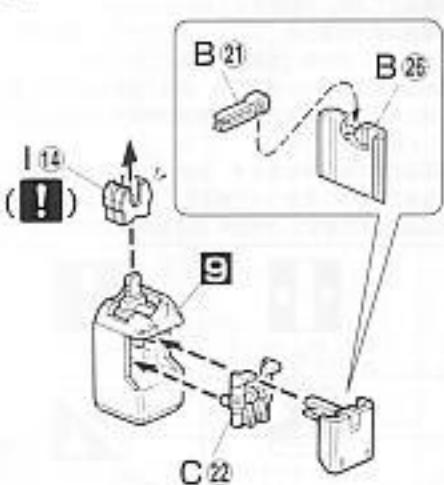
Head

Arm Unit

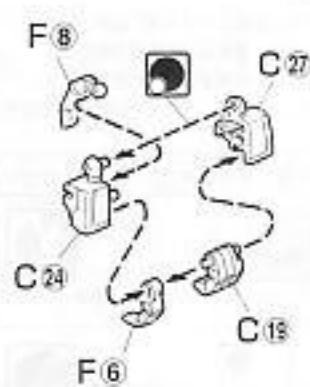
Leg &
Weapons

Final Assemble

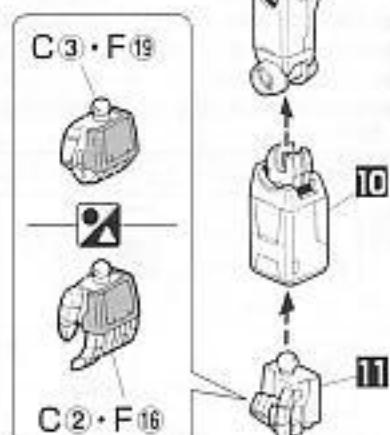
10



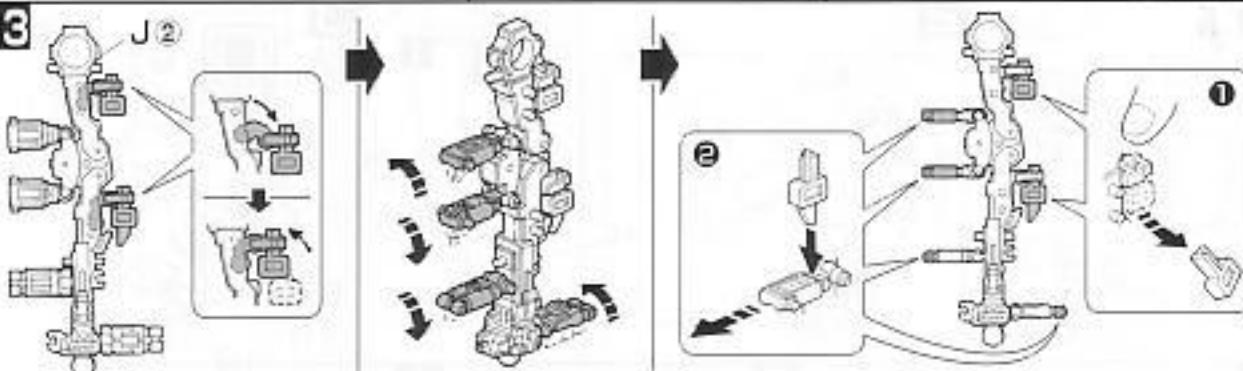
11



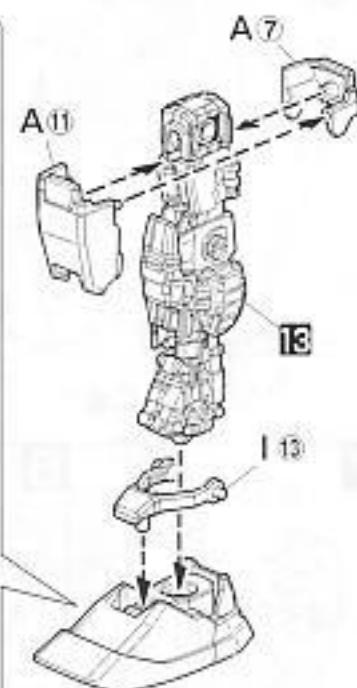
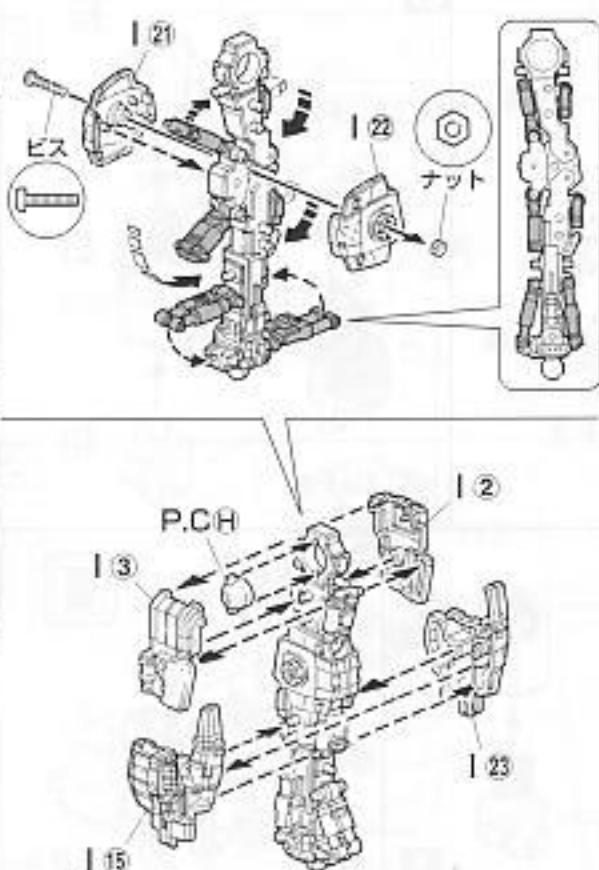
12



13



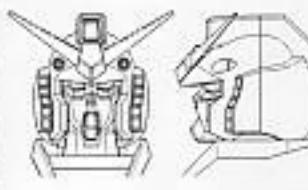
14



HEAD UNIT

HU-0078A0 S-000002

RX-78の頭部は、頭頂部のメインカメラ部と一対のデュアルカメラ、そして2門の60mmバルカンなどが内装されている。この構成を基本とした外観はガンダム系MSの特徴ともなっている。



RX-78の頭部は、センサー類の集合体である。特にミノフスキーパーツを下の環境に対応するため、光学的な走査鏡や各種の計測装置などは、光結合回路でリンクされ、大規模集積回路への干渉を防いでいる。“目”的部位がデュアルカメラとなっているのは、一説には視差による計測も可能だと書かれているが定かではない。メインコンピューターはコア・ファイターに搭載されているが、頭部ユニットは前次的なコ・プロセッサーフレームとしてある程度の機能を代替できるという。これほどの機能がサブシステムである頭部センサー群に盛り込まれているのは、教育型コンピューターへの負担を極力減らすための措置だとされる。ほかに、スーズ社製無段方位アンテナや、マツムソニック社製の通信、音響システムなども採用されている。また、頭部バルカン砲は、威力はそれほどではないものの、近接武装として、特に白兵戦展開時などに非常に有効であることが証明されている。

COCKPIT

RX-78のコクピットは、コア・ファイターのものがそのまま兼用される。ボディモジュールはコア・ファイターを内装した場合、小型化されたコ・ジェネレーターと一緒に組み合わされ、ザクの5倍以上のエネルギーを生み出す。

ガンダムの動力源は、コア・ファイターに2基搭載されるNC-3型核融合ジェネレーターをメインとし、背部のランドセル内にあるタキムNC-5型2基をサブジェネレーターとしている。NC型ジェネレーターはいずれもタキム社製で、3型はコア・ファイターの航空/航宙用の熱核ジェット/ロケットエンジンとしても機能し、メインスラスターの燃焼にも不可欠な装置である。5型はビーム・サーベルへのエネルギー供給にも使われる。さらに腰部のNC-7型1基などを含む総合出力は当時の宇宙艦艇の水準をはるかに超えるものだった。

頭部は各種式装のハードポイントやマウントラッチ、そしてサブジェネレーターのNC-4型、大気圧突入時などに使用する耐熱フィルターおよび機体冷却剤噴霧ユニットなどが内蔵され、腰部可動のためのターレット構造を取り巻くように配置されている。

ARM UNIT

AU-0078B6 S-000018

MSが持つ汎用性は多種多様な武装を容易に変更できることが前提となっている。白兵戦の場合、四肢の性能の優劣が格闘能力を決定すると言っても過言ではない。

ガンダムの各関節部分に採用される駆動装置は、フィールドモーターと呼ばれる新開発のアクチュエーターシステムである。これは、ミノフスキーパーツの応用で可能となった技術で、1フィールドとミノフスキーパーツの相互作用によって、スケールを超えた大出力のトルク発生を可能とする。このモーターは、連邦軍の技術部と重電重工メーカーのサムソニ・シム社の共同開発によるもので、マニピュレーターの各部にも同様の原理によるアクチュエーターが採用されている。開発に当たって軍当局が強く希望したのは、作動の確実性と整備の簡便性であった。連邦製のフィールドモーターは、公国系のパルスモーターに比較して駆動系と動力系の取り回しなどの確実性が高く、各ユニットのブロック化もあって、それらは運用上のフェイルセーフとして機能していた。ただし、その分ユニットそのものは構造的にデリケートなきらいがあり、損壊した部位は、基本的にそのユニットごと交換するのが



RX-78のコクピットは、コア・ファイターのものがそのまま兼用される。ボディモジュールは

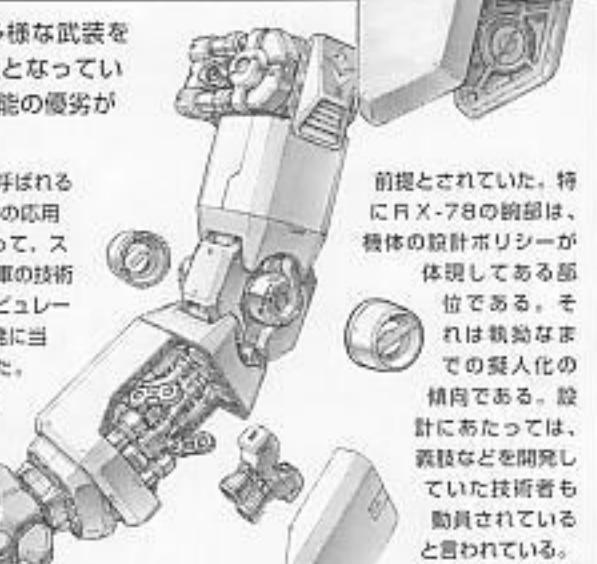
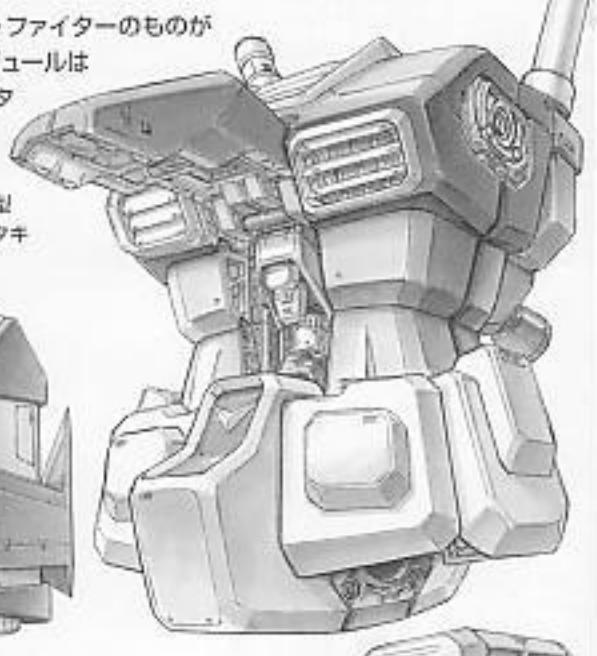
コア・ファイターを内装した場合、小型化されたコ・ジェネレーターと一緒に組み合わされ、ザクの5倍以上のエネルギーを生み出す。

NC型ジェネレーターはいずれもタキム社製で、3型はコア・ファイターの航空/航宙用の熱核ジェット/ロケットエンジンとしても機能し、メインスラスターの燃焼にも不可欠な装置である。5型はビーム・サーベルへのエネルギー供給にも使われる。さらに腰部のNC-7型1基などを含む総合出力は当時の宇宙艦艇の水準をはるかに超えるものだった。

頭部は各種式装のハードポイントやマウントラッチ、そしてサブジェネレーターのNC-4型、大気圧突入時などに使用する耐熱フィルターおよび機体冷却剤噴霧ユニットなどが内蔵され、腰部可動のためのターレット構造を取り巻くように配置されている。

MSが持つ汎用性は多種多様な武装を容易に変更できることが前提となっている。白兵戦の場合、四肢の性能の優劣が格闘能力を決定すると言っても過言ではない。

これは、ミノフスキーパーツの応用で可能となった技術で、1フィールドとミノフスキーパーツの相互作用によって、スケールを超えた大出力のトルク発生を可能とする。このモーターは、連邦軍の技術部と重電重工メーカーのサムソニ・シム社の共同開発によるもので、マニピュレーターの各部にも同様の原理によるアクチュエーターが採用されている。開発に当たって軍当局が強く希望したのは、作動の確実性と整備の簡便性であった。連邦製のフィールドモーターは、公国系のパルスモーターに比較して駆動系と動力系の取り回しなどの確実性が高く、各ユニットのブロック化もあって、それらは運用上のフェイルセーフとして機能していた。ただし、その分ユニットそのものは構造的にデリケートなきらいがあり、損壊した部位は、基本的にそのユニットごと交換するのが



前提とされていた。特にRX-78の頭部は、機体の設計ポリシーが体現してある部位である。それは軽量なまでの個人化の傾向である。設計にあたっては、義肢などを開発していた技術者も動員されていると言われている。

FIGHT'S ON

Documentary Photographs

FREE FALL

ルナツーを出撃したホワイトベースは、達井軍本部の所在地である南米ジャブローへ向かうべく、大気圏突入の準備に追われていた。そこに、新たにザク3種の捕獲を受けたシャアが翻ひかげ！ 重力にまかせて落ちはれば燃え尽きてしまう。その瞬間にシャアはホワイトベースに砲臺をかけたのだ。ガンダムを狙るアムロは、4分間というタイムリミットの中、出撃した。戦闘の最中、シャアに説得されながらも慣れぬ武器を扱いこなすアムロ。しかし、両者はすでに熱戦に達し、ガンダムはホワイトベースに接近できなくなってしまった！ 我も危険なら彼も危険。共に大地を見ることができるのが……!?

MAINTENANCE

ジョンの勢力を避けてジャブローを目指すホワイトベースは、やむなく北米大陸を横断して太平洋を目指す。度重なる戦闘でガンダムを始めとする機体は傷つき、グループもまた、疲弊していた。孤立無援にも等しい状況の中、少年たちは、生き抜けるために機体整備を怠るわけにはいかなかった。そんな中、達井軍からの補給船團が接触してきた。マナルグ・アジャン率いるミテア艦隊は、文字どおり、ホワイトベースの命運を賭ぐるのように、救援を運び、将軍の意向を伝える。その過酷な要求はアムロたちを疲れさせるのだが、マナルグの瞳を前に、少年たちは奮起させられもするのだった。



THROWING

コーラシア大陸を温心するホワイトベースの前に「青い巨星」の異名を持つランバ・ラル率いる特殊部隊が立ち候だかる。ホワイトベース部隊に討ちれたガルマの仇討ちの勲功を受けていたラルの部隊は、既結成ホワイトベースを付け狙い、機動も攻撃を仕掛けている。ガンダムを狙うアムロは、ラルと戦う内に此場に生きる男の生きざまを感じ、いつしか、ラルを慕えたいと思うようになっていた。U.C.0079年11月、オデッサ・データ日前に迫る頃、ラルの部隊はホワイトベースに白兵戦を挑んできた。轟轟粉が入り乱れる戦闘の中、倒ついたラルは兵士のさだめを見せつける。その壮絶な殴り厚を目の当たりにしたアムロは、なにも攻撃を続けるハモンに、怒りとも苦しみともつかぬ一撃を放つたった……。

WEAPONS



▲ プラチーン素材を使用したガンダムハンマー、ビーム・ジャベリンを加え、豊富な各武装をフルセット。

PAINTING

よりリアルに仕上げたい場合は、下の基本色をご覧ください。
お塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。

本体構造などの塗装色。
コバルトブルー(60%)+インディブルー(40%)

本体調節などの塗装色。
モンサレッド(100%)

本体インテークや腰部分などの塗装色。
イエロー(80%)+オレンジイエロー(10%)

脚部窓、ビームライフルなどの塗装色。
ダークグレー(50%)+モスグリーン(2)(50%)

内部メカニックなどの塗装色。
黒鉛色(100%)

本体腕、膝部などの塗装色。
ホワイト(100%)



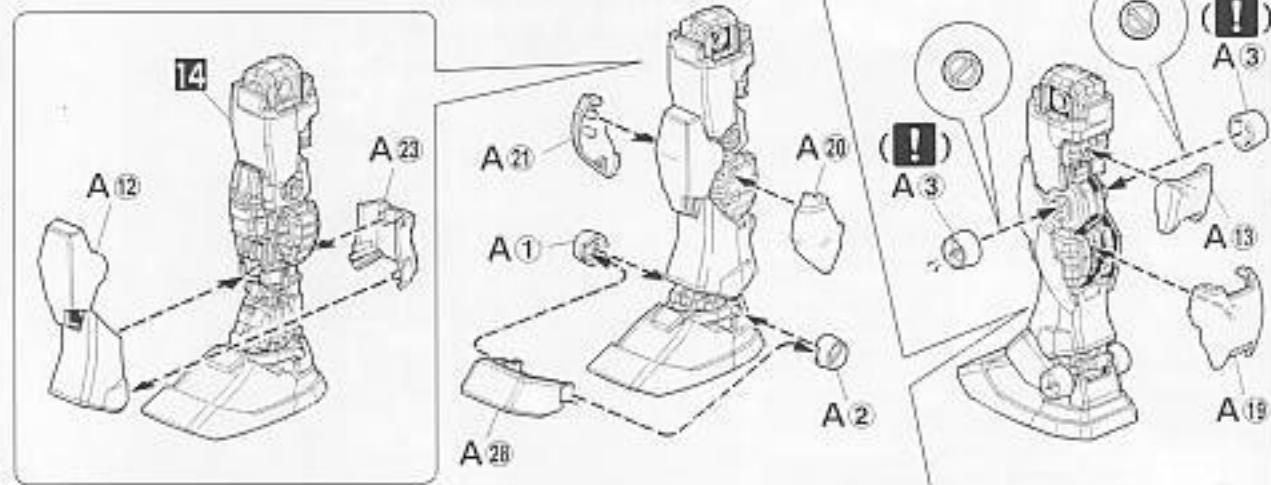
REAR VIEW



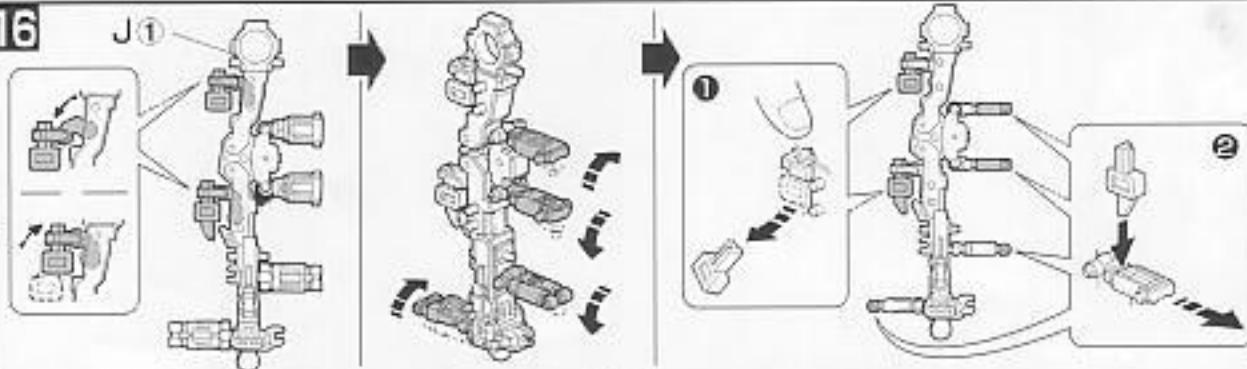
FRONT VIEW



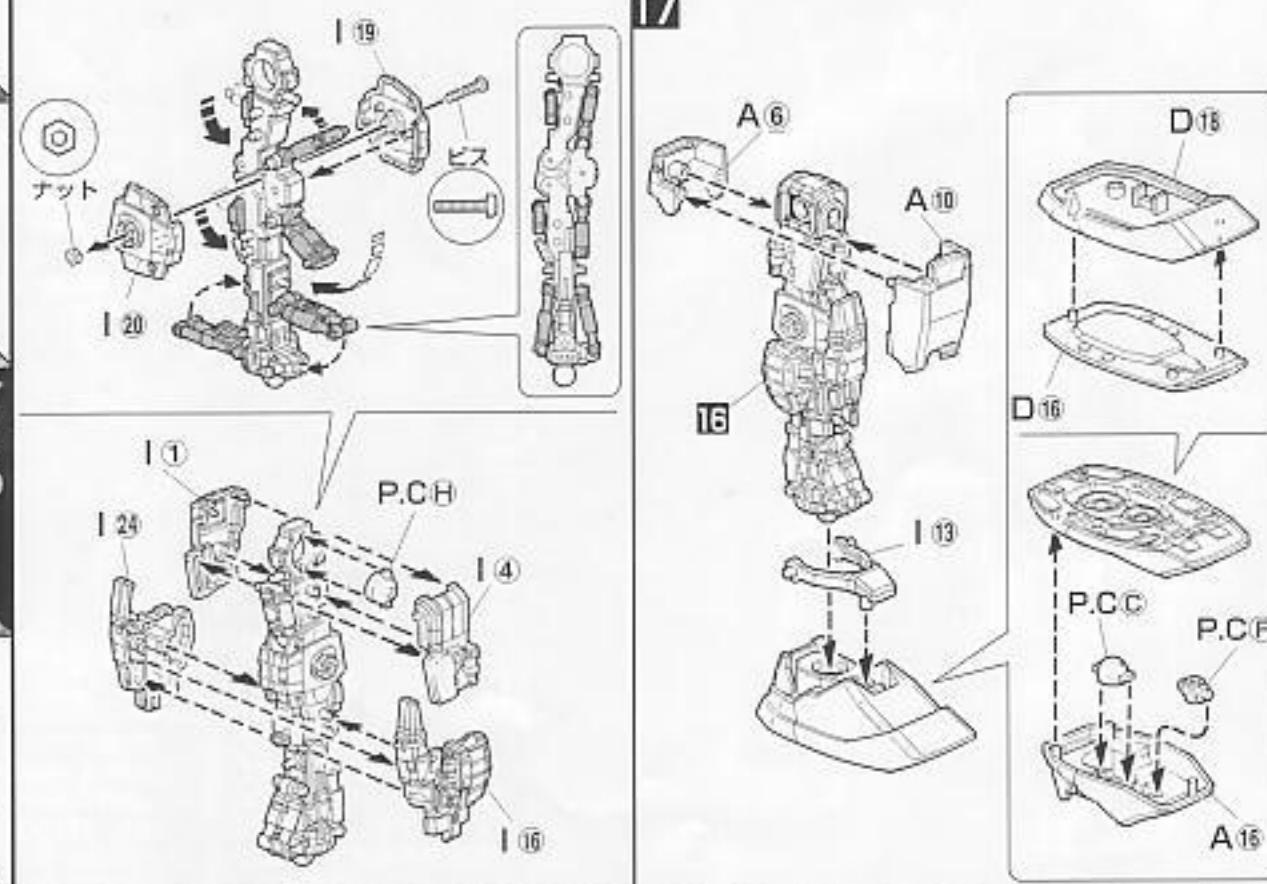
15



16



17

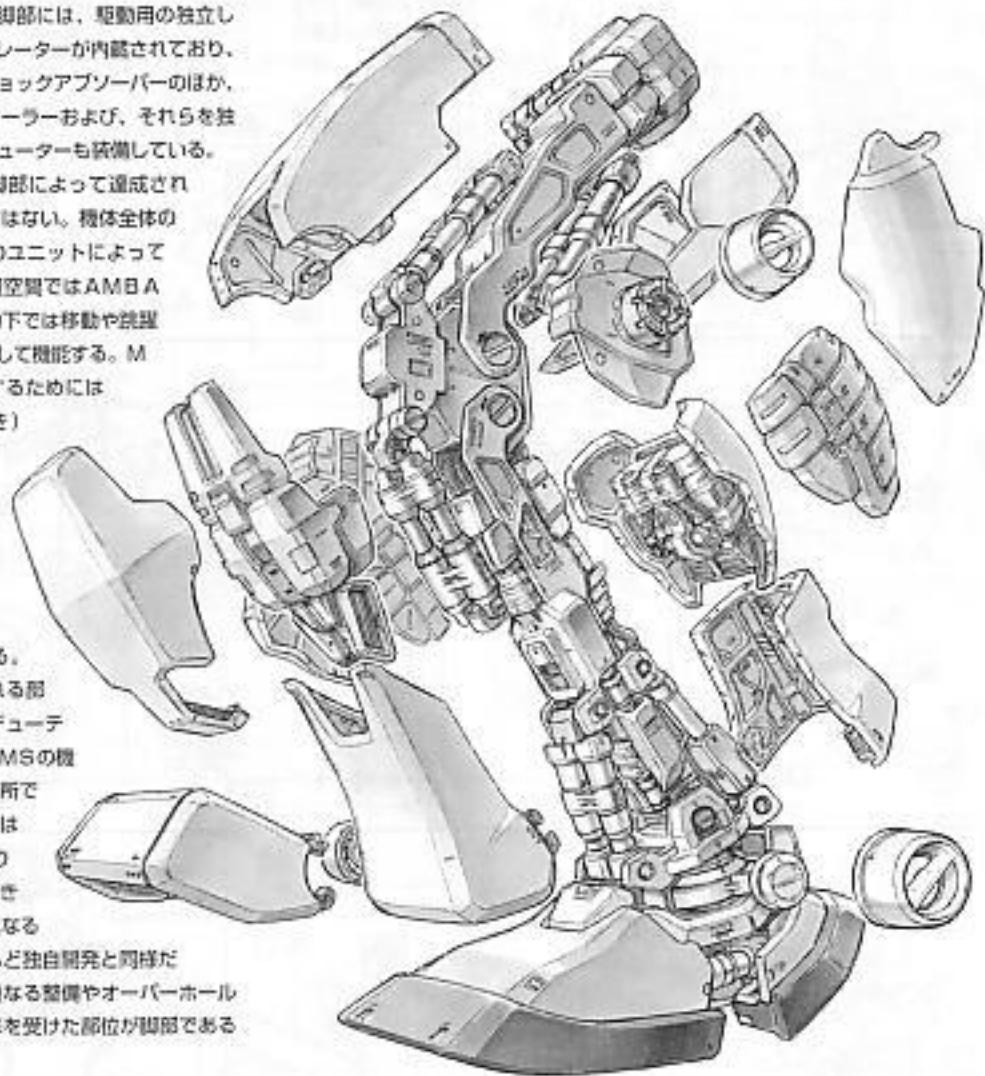


LEG UNIT

LU-0078A1 S-000031

MSの脚部は、その機動性の多くを担う非常に重要なパートである。重力下では足となって破格の走破性を發揮し、無重量空間では姿勢制御の基本モジュールとして機能するのである。

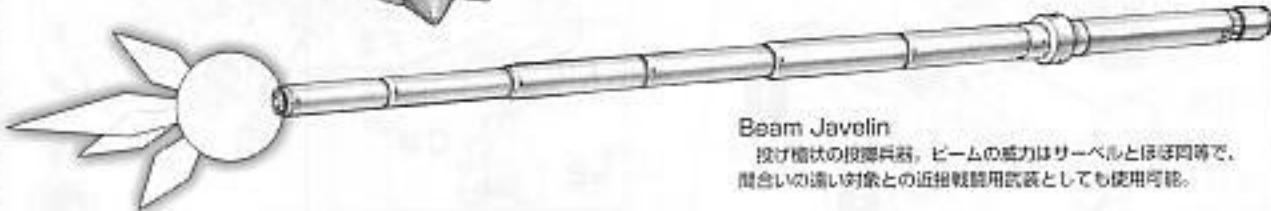
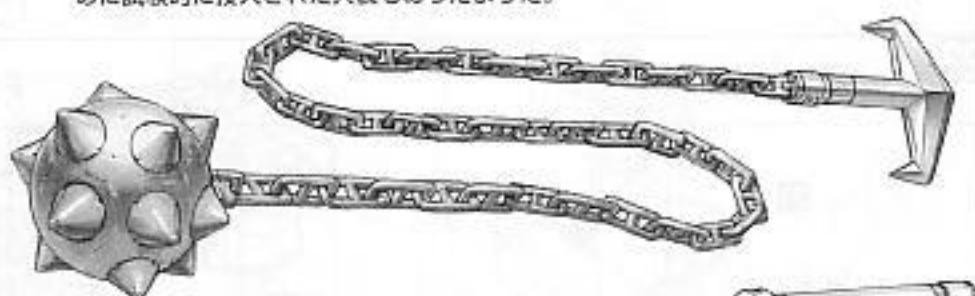
RX-78ガンダムの脚部には、駆動用の独立したNC-3M型のジェネレーターが内蔵されており、姿勢制御用バーニアやショックアブソーバーのほか、各種センサーやコントローラーおよび、それらを独立・統合制御するコンピューターも搭載している。MSの汎用性は、この脚部によって達成されているといつても過言ではない。機体全体の質量のおよそ半分がこのユニットによって占められており、無重量空間ではAMBACユニットとして、重力下では移動や跳躍のための駆動ユニットとして機能する。MSが自らの威力を発揮するためには(いくつかの例外を除き)不可欠な物である。また逆に、その用途からは想像もできないほどデリケートなユニットでもある。そのため、特にMSの脚部は、非常に複雑な構造となる。その上もっとも酷使される部位でもあるためヘビーユーティリティでなければならず、MSの機体の中でも特に重要な所である。2脚歩行そのものはザクから入手したO.Sの解析で開発期間を短縮できたものの、設計思想が異なる機体であるため、ほとんど独自開発と同様だったという。実際、度重なる整備やオーバーホールにおいて、もっとも改修を受けた部位が脚部であると言われている。



WEAPONS

RX-78が装備可能な武装は多岐にわたる。それは、MSそのものが、運用上の利便性や戦闘能力の向上を模索する途上にあったからで、その実効性を検証するために試験的に投入された兵装もあったようだ。

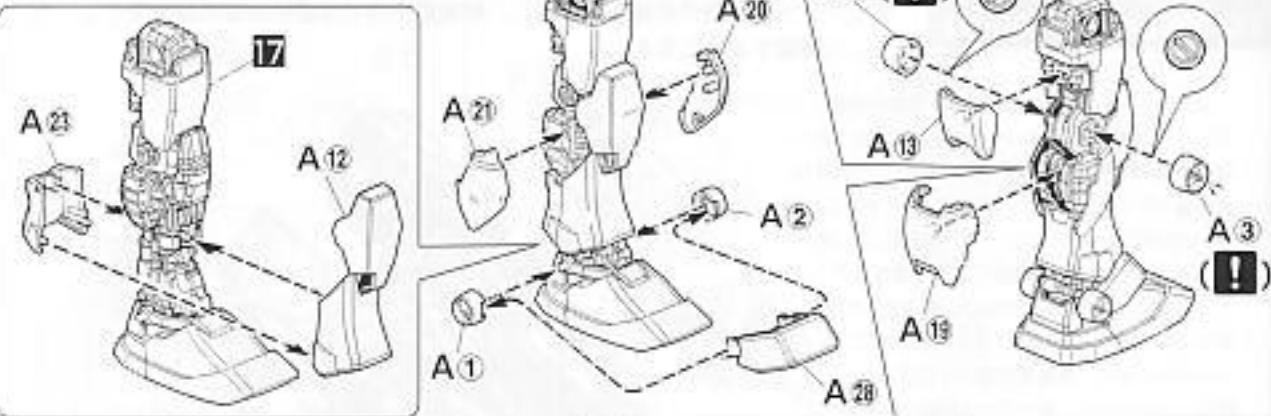
GUNDAM Hammer
近接戦用の打撃兵器。原始的ではあるが物理的な攻撃力は対MS戦において予想以上の効果をあげたと言われている。



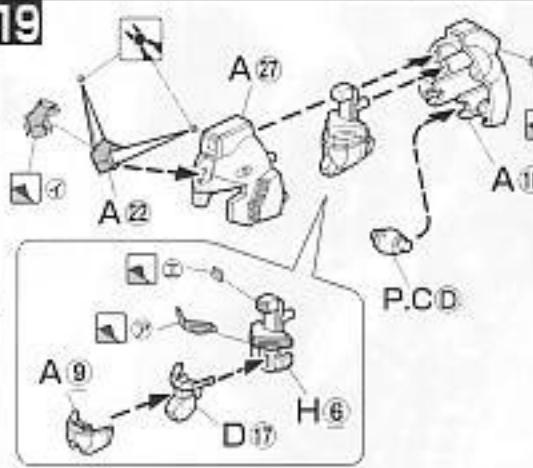
Beam Javelin

投げ棒状の投擲兵器。ビームの威力はサーベルとほぼ同等で、間合いの適い対象との近接戦用武具としても使用可能。

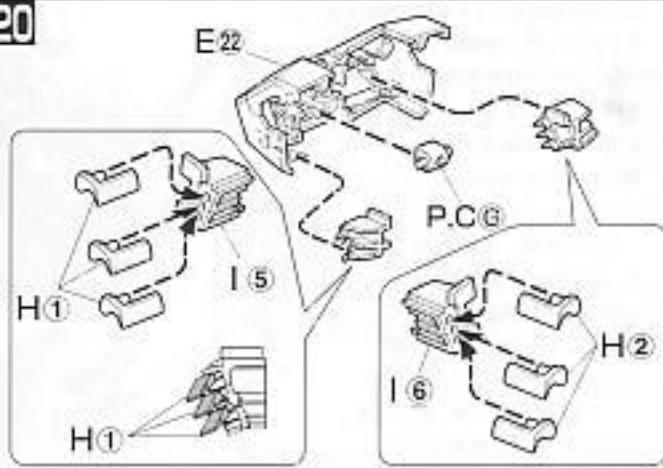
18



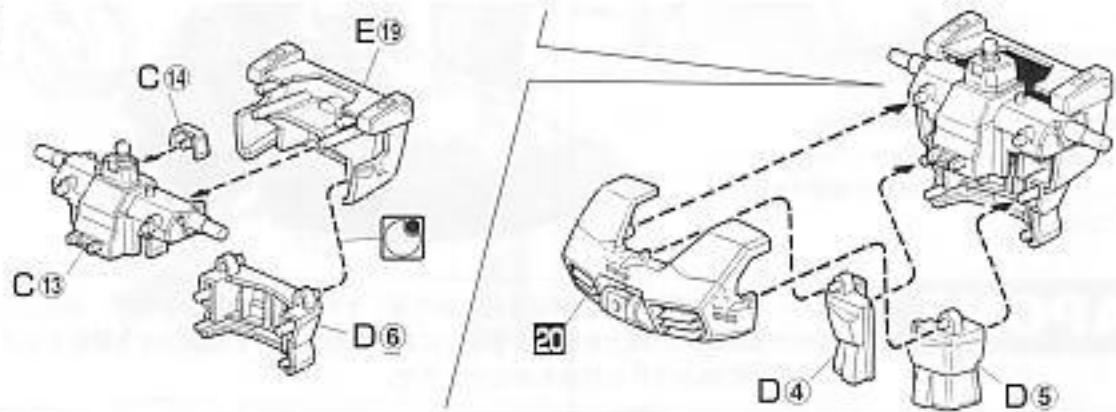
19



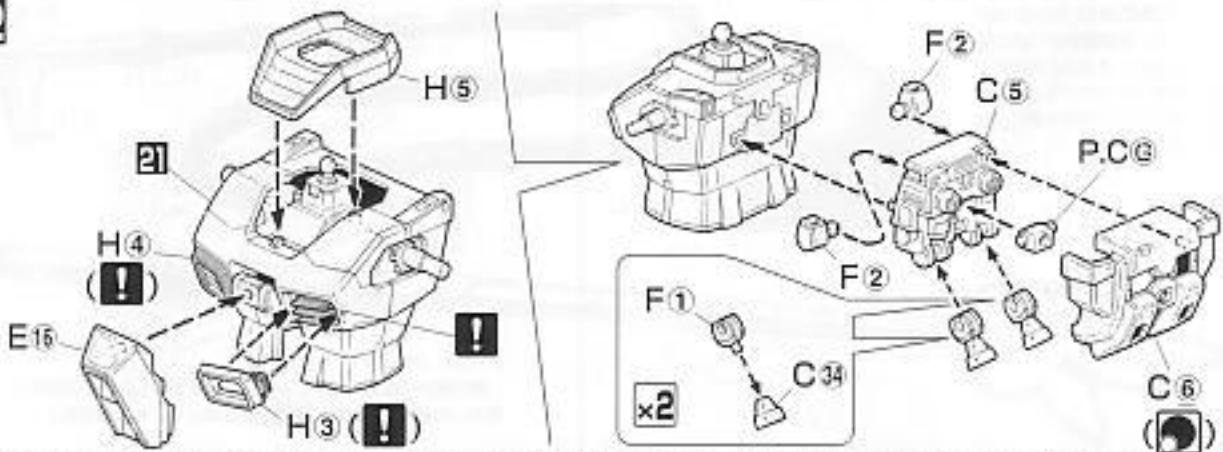
20



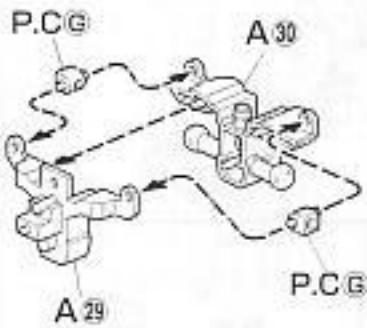
21



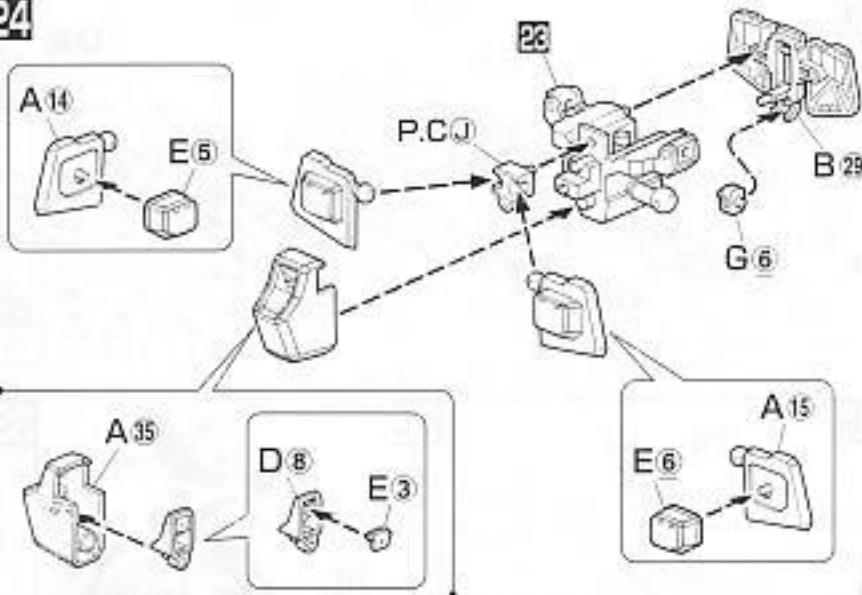
22



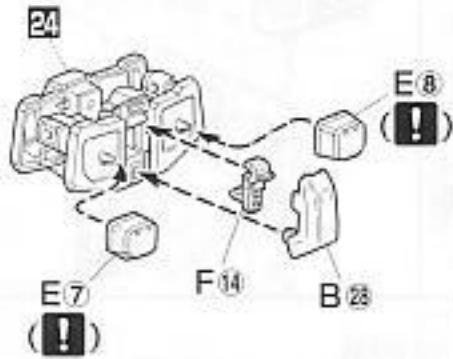
23



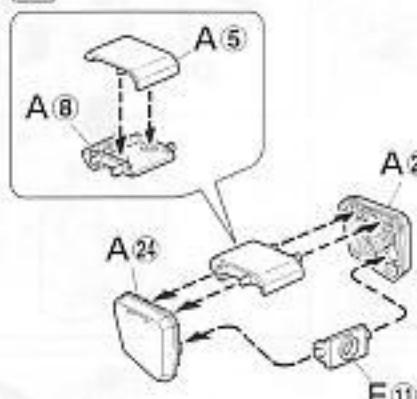
24



25



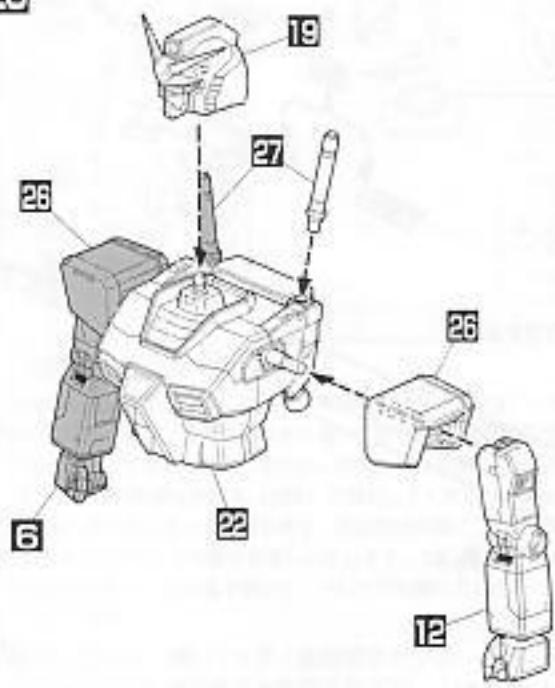
26 x2



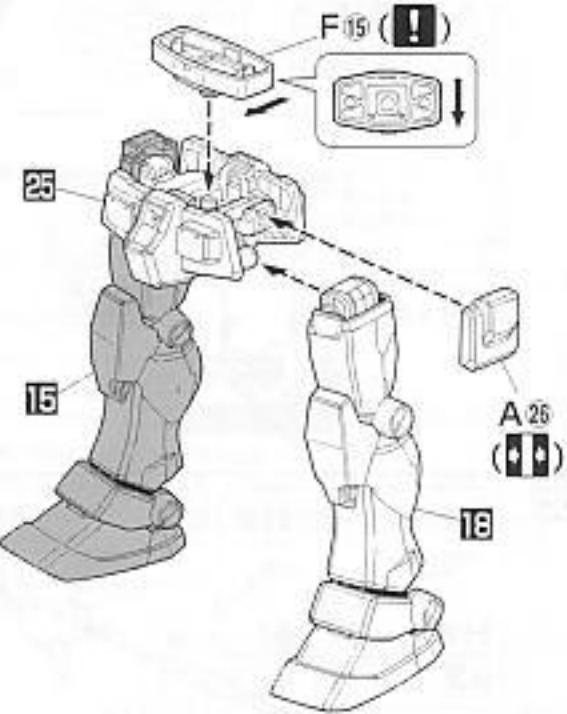
27 x2



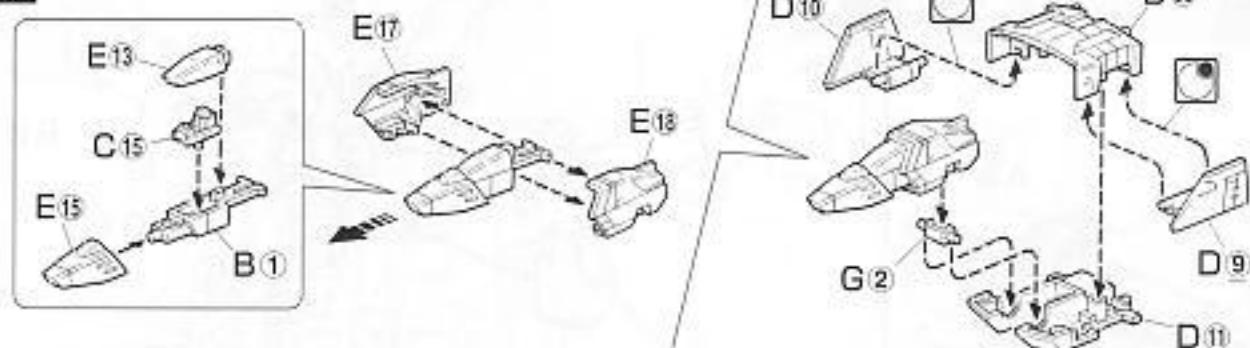
28



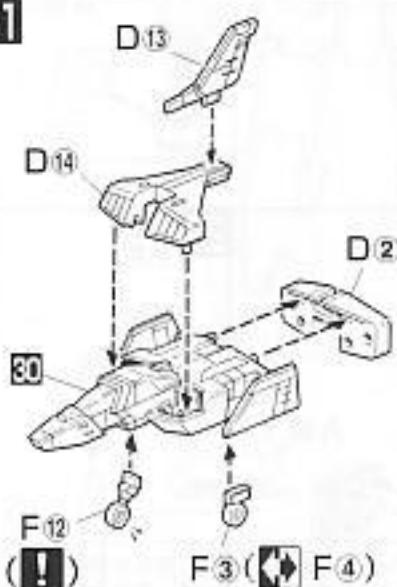
29



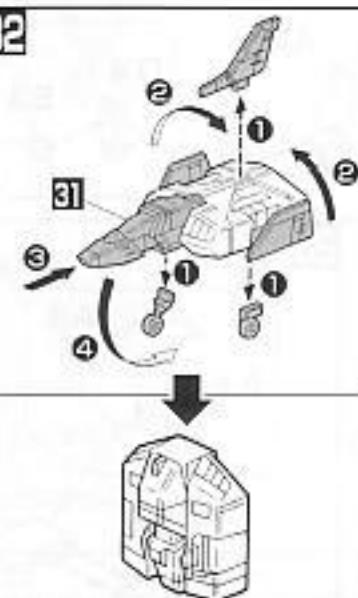
30



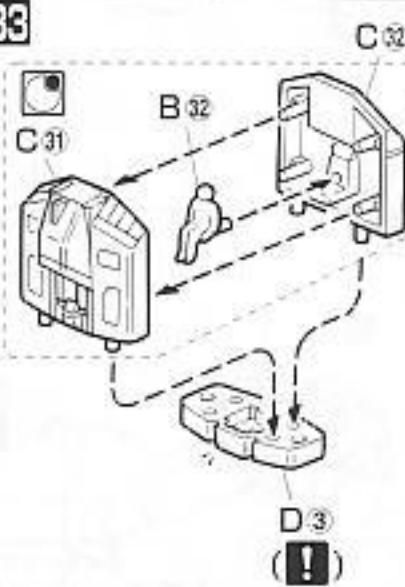
31



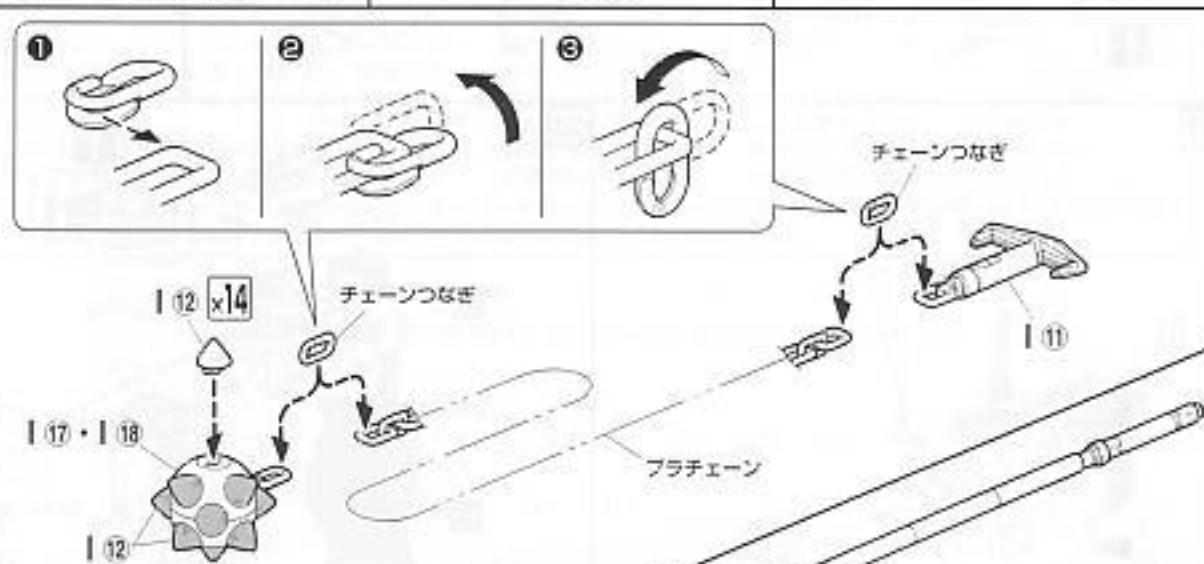
32



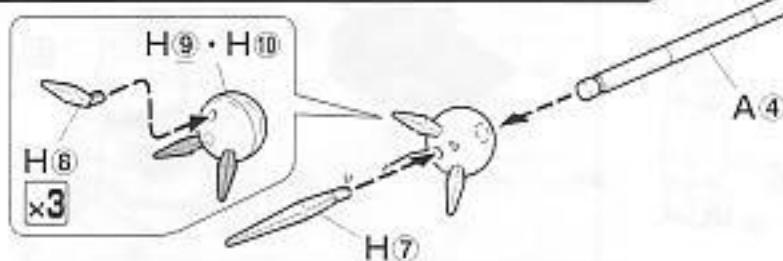
33



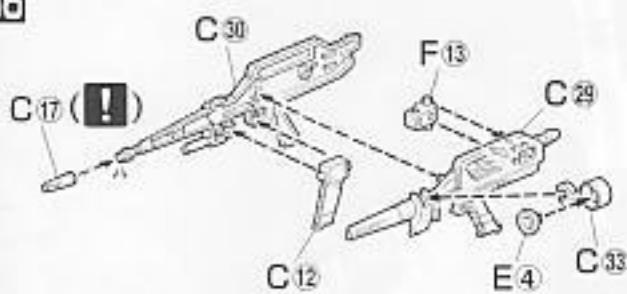
34



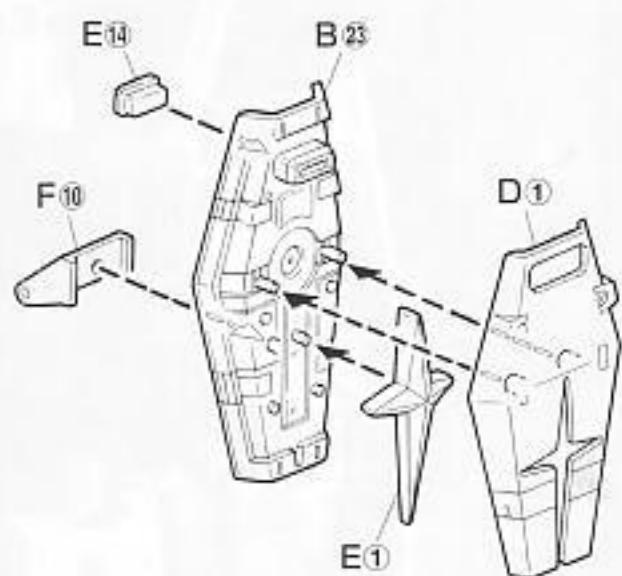
35



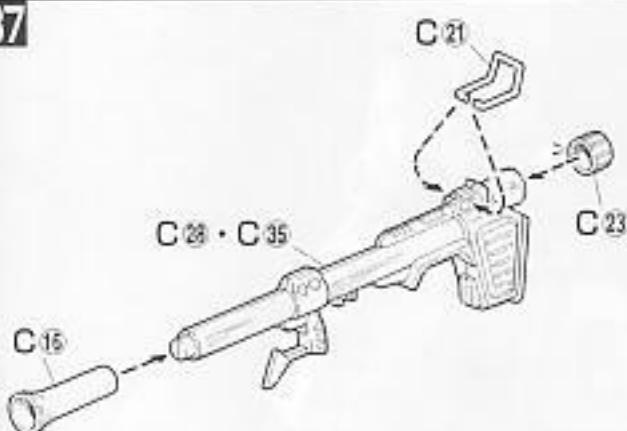
36



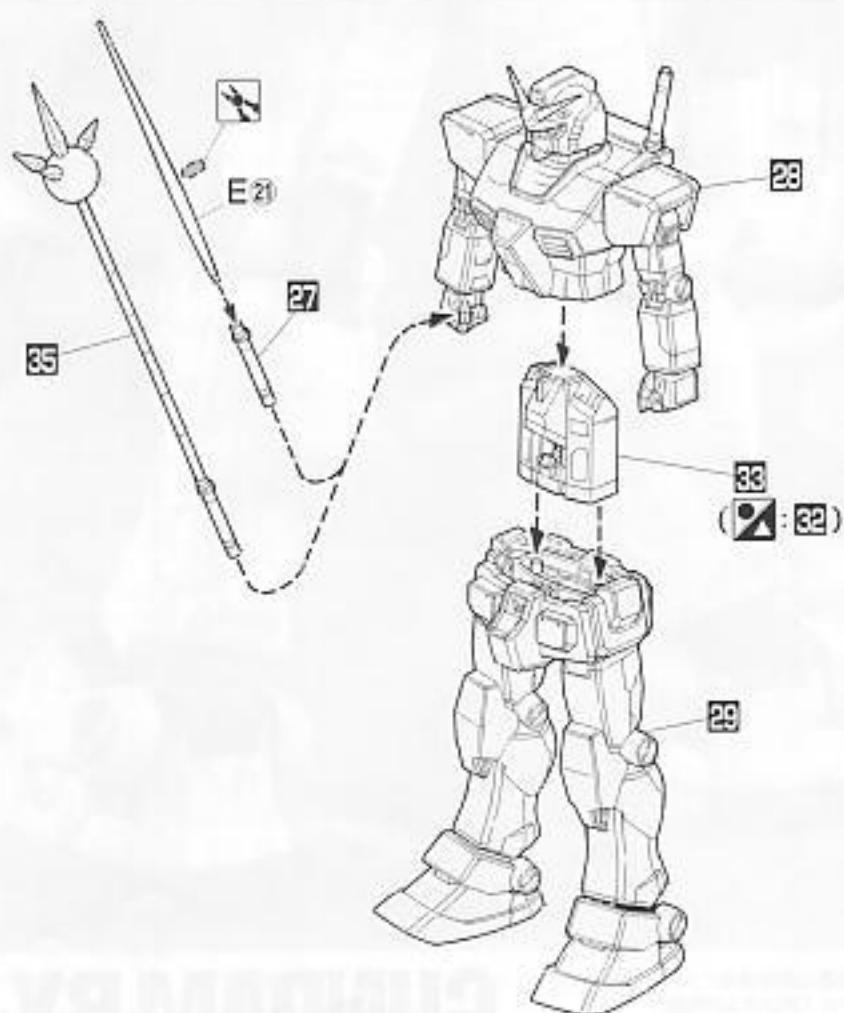
38



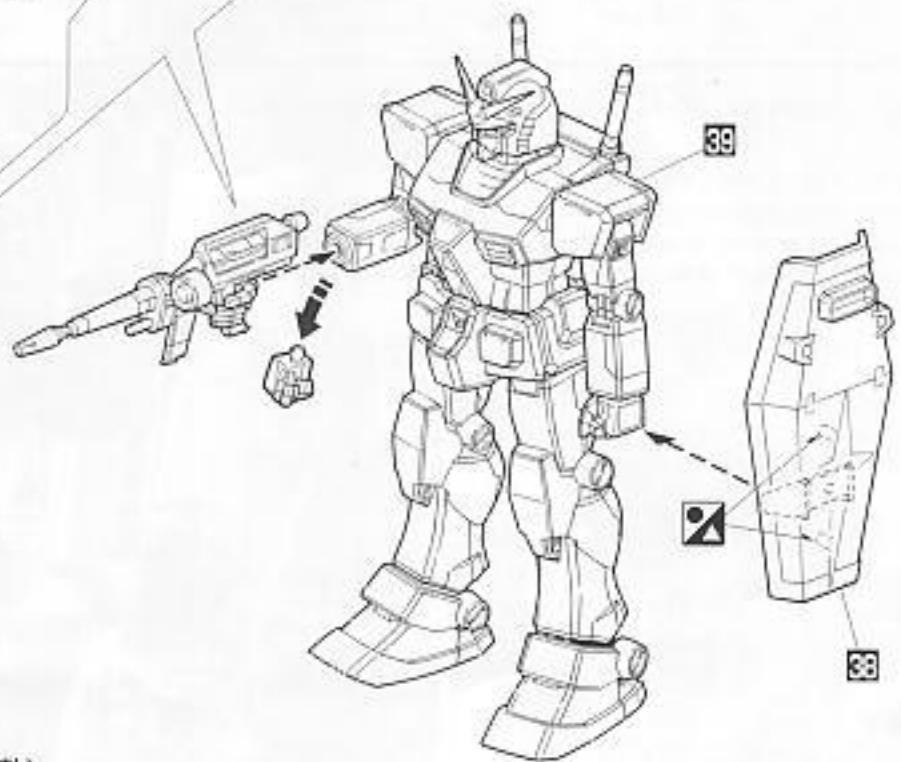
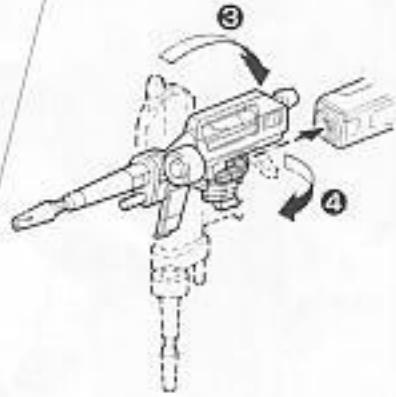
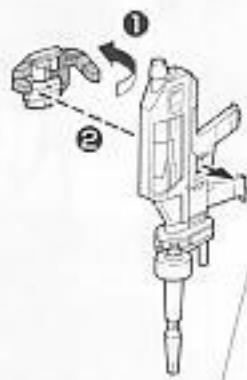
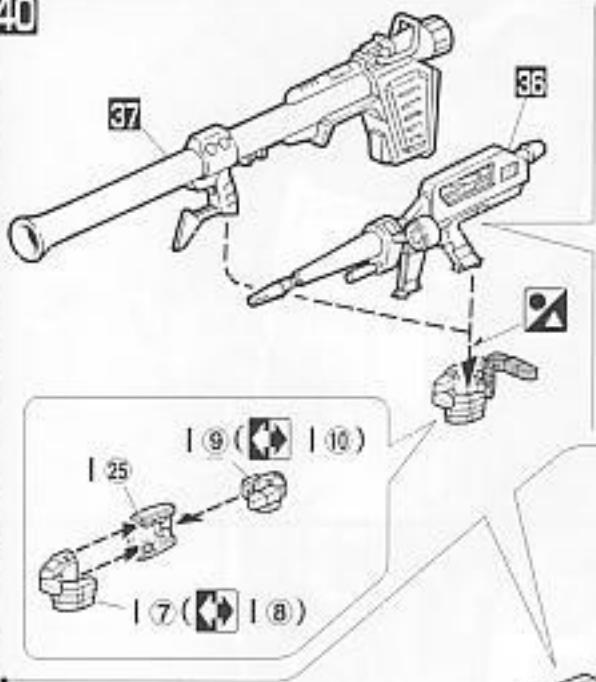
37



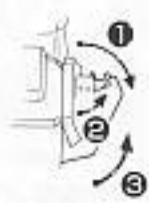
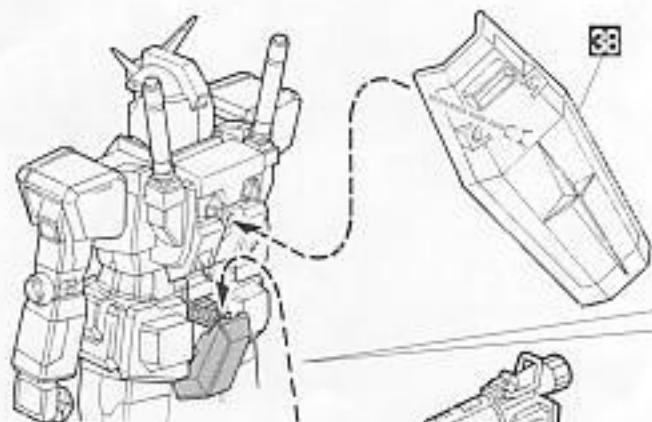
39



40



※右側は好みの場所に飾ってください。



41



①



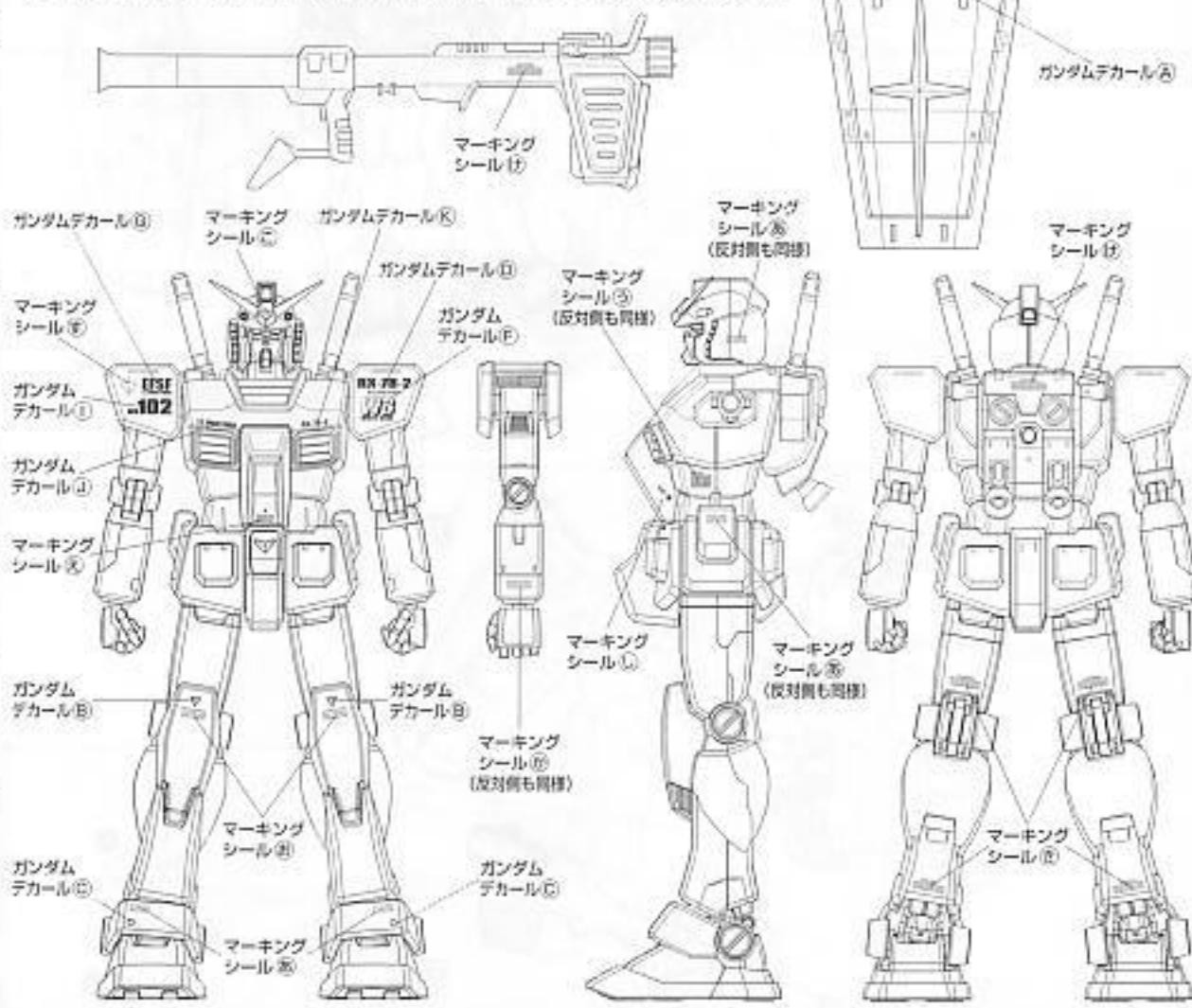
②

**Seal**

下の図を見て、ガンダムデカールやシールのはる位置を確認してください。

（シール）
ガンダムデカールのはりかた。

1. 貼写するマークを大きめに切ります。
2. 貼写する場所に軽く押さえ、ボールペン等の先の丸い物で上から軽くこすりつけます。
3. シート部分を静かにはがし、貼写していない部分があれば、もう一度貼写していく部分をこすります。



*余ったマーキングシールやガンダムデカールは好きな所にはってください。



協力：ホビージャパン



地球連邦軍白兵戦用モビルスーツ
RX-78-2 「ガンダム2号機」
リニューアル+フルウエポン
1/100 スケール
マスターグレードモデル Ver.

GUNDAM RX-78-2
F.F.S. PROTOTYPE CLOSE-COMBAT MOBILE SUIT

Scanned by Dalong.net